

アカスジチュウレンジ

春から秋にバラやハマナスの葉を集団で食べる緑色のイモムシ（幼虫）。最大長約20mm。頭は小さなときは黒いが、大きくなると黄土色になる。また、大きな幼虫では背中に黒い斑点がある。

バラの害虫としてよく知られている。



1. 中齢幼虫，体長13mm. 1993/8/10.



2. 老齢幼虫，体長15～18mm. 1993/8/18.



3. 雄成虫，体長7mm.

1～3. 新得町，庭のハマナス.

2～3. 写真1の幼虫集団を飼育，撮影.

【学名】 *Acronicta nigripuncta*

【分類】 ハチ目 (Hymenoptera) , ハバチ亜目 (Symphyta), ミフシハバチ科 (Argidae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州；サハリン，シベリア.

【特徴】

バラにはよく似たチュウレンジハバチ (*Acronicta pagana*) の幼虫が寄生する。この種の幼虫は大きくなっても頭部が黒い点で識別できるようである。

【生態】

宿主：バラ属 (セイヨウバラ，ノイバラ，ハマナスなど) .

土中の繭内で越冬する。寒地では年2～3回の発生といわれている。

道東の新得町では1993年、8月上旬に幼虫が採れ、飼育したところ8月中旬に繭になり、翌年に羽化した。

【被害と防除】

庭などのバラやハマナスによくみられる。幼虫集団をみつけたら取り除いて駆除する。

農薬による駆除が必要と判断される場合、バラのハバチ類用またはバラのチュウレンジハバチ用の農薬として、アセフェート液剤、エトフェンプロックス剤（エアゾル、乳剤）、シフルトリン液剤、ピリダフェンチオン乳剤、ピレトリン剤（エアゾル）、MEP液剤などがある。農薬は取扱説明書に従って使用し、散布にあたっては通行人や近くの住民らに十分配慮すること。

【文献】

1977. 奥野孝夫, 田中寛, 木村裕. 原色樹木病害虫図鑑. 365 pp. 保育者, 大阪. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

アカスジチュウレンジ mifusi/akasuji/
kaisetv.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2002/1/25.

1yochu1.JPG, 1yochu2.JPG, 1seichu.JPG

「写真1～3」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1993.